

練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第7回）「体力の向上」部会 要点録

| | | |
|------|-------------------------------|---|
| 開催日時 | 平成21年11月2日(水) 午後3時30分～午後5時43分 | |
| 会場 | 練馬区役所本庁舎19階 1906号会議室 | |
| 出席者 | 委員 | 米津光治、赤木宏行、宮野いずみ、内田秋男、工藤智昭、本間章朗、畑陽子（敬称略） |
| | その他 | 教育出版 |
| | 事務局 | 五十嵐浩子 統括指導主事、渡辺浩一 指導主事 |

1 挨拶

部長

前回の1次報告書のプロット案にのっとり、中間報告の冊子作りに着手しているところ。

1年次の報告書の作成に向けて前回担当を決めた。それから事務局で、9年間を見通した目指す子どもの姿とか重視する指導項目がかたちになってきている。細かい文言は別としても、まず全体として委員の共通理解を図ることで時間をかけて話をした。いよいよ具体的な原稿作りとか、この資料の精度を上げるため、また意見交換できればいい。

事務局

まず前回の要点録の確認。それから作成した内容を説明いただき、修正できる点を修正したい。そして次回までに一度、事務局で集約させていただき、まとまったものを事前に送る。そして12月4日に、全体で確認ができる報告書作成の最後となるので、そこで最終確認をする。皆さんの同意が得られれば、それ以降は部長先生、杉原先生、米津先生、事務局で細かい修正を図り、本部会の第1次案の報告書として一貫教育の委員会に提出をしたい。では、本日の資料の確認。はじめに、部長先生の「1年次報告書」。続いて杉原先生の「体力向上部会のねらい」。宮野先生の「目指す子どもの姿」。そして内容は「体づくり運動」、小学校の工藤先生のもの。畑先生の中学校のもの。食育は工藤先生のもの。「部会で重視する指導項目」、私の作成したもの。最後に、こちらの育成カリキュラムのA3判。次に、同じ育成カリキュラムのキャリア教育の現段階のものである。

2 協議

部長

推進委員会の答申とか、この部会がはじめに確認した体力向上検討委員会等の練馬区としての文言のとらえ方も交えて文章にした。案文の下から6行目、「三つの重視する指導項目を設定し」とあるが、実際的に三つ設定した。ここをもう少し掘り下げていると思う。でも、基本的な考え方という意味では踏み込みすぎという思いもあるので、重視する指導項目の説明をどのあたりで盛り込むかがポイントになる。「重視する指導項目」で、杉原先生のところでもその点に触れていない。それから「目指す子どもの姿」のところは縦のライン。そこでも重点項目のところには触れていない。具体的に4番目のクラブ活動・学校行事・体づくり・保健に入っていくと、そのあたりをどこかで踏み込んでおかなければいけない。

事務局

指摘があったように基本的な考え方の重視する指導項目は、内容を項目だけでも触れていいかと。逆に後段の「Ⅱ期の指導の配慮」のところで、具体的な例示を3点指摘いただいた。ここ何回かでは部活動の話し合いが持たれたが、男女共同学習や教科担任制のところにあえてこういった文言を出した場合、また後段で触れることになる。一つの視点として、重視する指導項目を3点挙げて、後段の「重視する指導項目」で詳しい内容を説明する。今の資料では男女共同学習と部活動はあるが、教科担任制に触れるところがないので、今回の報告書はその方向で示していただけると感じた。あと1点、最初の小中一貫教育校の体力向上の指針が出ていて、そこには最後の3点の部活動に関しては「部活動を行うなど発達段階を踏まえた適切な運動の経験を通して」というところがあるので、残したほうがよい。

委員

では次に部会のねらいについて。設定が7項目あるが、一番下の7項目目のところに重視する指導項目が四つ入って、「全学習期を通じて学習する内容等」となっているがどうか。

部長

これは、基本的な考え方で書くべき内容と、杉原先生のところで書く内容とが混在している。この部分を突き詰める必要がある。それから指摘があった(7)は、重視する指導項目が項目として触れられているが、全学習期を通じて学習する内容という点、今までの話の中では別だ。今取り上げたのは重視する指導項目の中にある三つの項目で、それとは別扱いで全学習期を通じて学習する内容は入っているから、最後のところは削除して別枠扱いにすること。

事務局

他の部会でまとめようとしているたたき台もあるので、こちらからまた提供したい。

他部会の現状として、先日小中一貫教育校の推進委員会で、四つの部会は今こんなことを考えているとか、学習期をこう捉えているということ、説明した。

表現力は、伝えるほうに焦点を当てる。伝えることは中身がなければいけないので、言葉の使い方、語彙力は、全学習期を通じて国語を中心にやるということで、全学習期を通じて学習する内容を四つの柱に収まらないから出した。

心の教育の推進は、豊かな心とは何かを定義づけて、答申にある情報モラルについては項を起こすのではなく、規範意識とか思いやりという重視する項目ここで取り扱っていく。

キャリア教育は、文科省のキャリア教育の四つの柱から練馬区としては自己肯定感・自立心、望ましい勤労観・職業観、この二つが柱であると言い切って実践から始まっている。他部会と違うのは、キャリア教育はいろいろな実践からこの二つの柱を育てようと言い切っていること。

体力の向上部会においても、体力向上検討委員会の報告から「体力とは」ということを言い切っている。運動するための体力、健康に生活するための体力、この二つが本区のこの部会で考える体力と定義づけ、私たちはこんな考え方、重視する指導項目はこれというかたちで流していただきたい。最終的にマトリックスにまとめ、報告書として作成していただきたい。

委員

次に「学習期における目指す子どもの姿」ということで、大きな表の中で目指す子どもの姿は挙げられているので、その項目をⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期に分けて上のほうに入れた。下にどのようなことを重視するのか書こうと思ったが、1・2・3・4年で言い切るのはなかなか難しい。あとは、運動面と健康面をどういうふうに入れるかも含めながら入れてみた。

事務局

今回1ページでということなので、字数は、原案としては11ポイントで36字×30行、余白は2.5センチと考えている。

部長

「目指す子どもの姿」のところ、Ⅱ期の表現として小学校の児童から中学校の生徒への移行期の表現をもうちょっと組み込んだほうがいい。いままで小学校6年間で育ってきた後半部分の特性と中1の生徒の特性との絡み。Ⅱ期は小中連携の一番ウエートを置く部分。

事務局

Ⅱ期は6年生ぐらいになると男女の差が出てくる時期。中1になって男女別々に体育の時間がある。今は家庭科も技術も一緒だから、体育だけ。そのあたりが述べられるといい。この部分は中学校の先生には気付きにくい。どんなことに配慮して、目指す像がここにあるとしていただけるとありがたい。

事務局

Ⅱ期だけ見るとピントを絞ることが難しいが、Ⅰ期からの流れで考えると、大きな流れとしてⅠ期は、競技や種目になる前の段階で基本的な動きを体験させ、運動が楽しいことを味わわせる中でいろいろな動きを体験させる。Ⅱ期は具体的な種目に触れる。いろいろなスポーツの面白さに具体的に触れていく時期。Ⅲ期はいろいろ体験した中で生涯体育、生涯スポーツに接続できるような流れということからすると、実際の指導要領も5年生から「いろいろな種目」に触れさせるかたちに授業も変わる。この時期に特に自分が「楽しい」「おもしろかった」のがⅢ期につながるよう、まず体験してみることが文言として盛り込まれると、流れが出る。あと標記で2行目「理性的な理解」というところ、何か文言があると思うが、確認する。

委員

「種目」はあまり体育科で使わないのではないか。基本的に「多くの運動を体験する」とか、下は「得意な運動を見つける」なので、そのへんは「運動」に統一したほうがいい。それからⅡ期が一番重要。小学校から中学校へのスムーズな連結ということでメイン。そのあたりを運動や体育科を通してどのように実現していくかが小中一貫の体力向上の目玉になる。先ほど出たように、5、6年では男女混合の体育の授業が、中学校になって運動能力差・性差が顕著になる。それをどのようにとらえて小中一貫でスムーズに移行できるかが重要なので、そのあたりを打ち出せば。それから自分の体に関心を持つのもこの時期からで、本格的な思春期ということも捉えて、やはりⅡ期は重要。Ⅰ期、Ⅲ期は小学校と中学校の典型を書けばいい。Ⅱ期

では小中の連携、一貫校の意味合いが強きたいへん重要な部分だ。

事務局

「種目」と「運動」について、指導要領の確認をする。

部長

I期、III期は書きぶりを揃えるといい。まず、I期、II期、III期でそれぞれの心身の発達の特徴を示す。併せて目指す子どもを育てるために何を重点的にやっただけかを書けばいい。中2、3はキーワードとして自分で選択することが入ると明確になるのでは。

委員

「種目」と「運動」についてはまた確認して。次に「体づくり運動」に。

委員

これは5ではなくて4に直してほしい。まずは「体づくり運動」の健康。本部会で最初に書いたのが「体づくり運動」。1から4まで、1番は体づくり運動の概略、2番は練馬区の体力の現状の特に劣っているところ。3番は学習指導要領の中で体づくり運動の指導。発達段階においてどんな感じか。4番はこの前出た「安全面に留意する」「自己の体を守る」ことを体づくり運動の中で育てていく必要性について。これは中学校について特にIII期の具体的な運動例について書いた。内容は、特に②については劣っているのが持久力・敏捷性・投力・瞬発力。それから、指導要領での基本的な体ほぐしについて。これは児童・生徒同士が交流し、体を触れ合いながら体の調子を整える運動は、全学年統一で発達段階に合わせて取り上げていくことが書いてあった。小学校低・中については、やはり多用な動きを作ること。将来の体力向上につなげていくための経験が重要視されること。ただし、その中で用具操作・機械・固定施設などを有効活用して運動を行うことも書かれていた。それから、高学年は体力を高める運動の中で「体の柔らかさと巧みな動き」と「力強い動き」「動きを持続させる力」があるが、特に小5、6は、軟らかさと巧みな動きで、それをII期。力強さと持久力はIII期にしたらどうか。それを基に表にした。「練馬区における体力の課題 体づくり運動で重視する視点」ということで、練馬区の課題と学習指導要領における指導の重点と「安全面に留意し、自己の体を守る指導の重点」ということで書いたが、かなり幅広くなる。運動例を挙げたが、基本的に小学校ではI期はいろいろな運動経験、II期は体の柔らかさ、巧みな動きを高めること、III期では力強さ・持久力を重点とした体づくり運動を開発、考案し、アイデアを出しながらやっていく必要がある。もう一つは自己の体の制御能力で、マット運動と連携させながら転がる感覚とか受身の取り方もやるという指導方法を考えなければいけない。結局指導者のセンスとか才能、知識、計画が非常に問われてしまうのであまり提言しなかったが、例を探して、各1個ずつ入れた。スペースの都合でこれ以上は難しい。

委員

1番、練馬区が出している体力調査報告書をまとめている。私はII期、III期だったのでそこを抜粋してまとめた。小学校では「敏捷性・全身持久力・跳力・投力を高める運動を意図的に

継続的に」と書かれている。2番の中学校も「持久力・跳力・投力」。小学校と中学校を比較して、下回っているところが同じということに着目した。その結果、2番の練馬区で児童生徒に身に付けさせたい体力ということで、①から④、これは大きな1番の「運動するための体力」、また2番の「健康に生活するための体力」、ここの2番に結びつくことが1枚目のプリントの説明。私が担当している2枚目の3番のところの体づくり運動についてだが、中学校の指導要領と資料を見て、体づくり運動の1番として体ほぐし運動、2番として体力を高める運動ということで抜粋して記入した。24年からの指導要領で男子がダンス、女子が武道をやるということも含まれているので、体ほぐし運動で現代的なダンスを取り入れたらどうか。また、コミュニケーションを取りながらのストレッチやダンスを含むことも練馬区の大きな目玉として使えるかとも考えている。

委員

工藤先生と畑先生のすり合わせも大事。

事務局

体力テスト、本区としてはシャトルランを必ず行う。持久走は選択。

委員

基本となるのでやはり指導要領は外せない。Ⅰ期では運動遊びとか多様な動きを経験させること。Ⅱ期は巧緻性とか体の柔らかさを高めること、Ⅲ期で力強さとか持久性。その中にどのように練馬区の体力課題を解決する運動を取りこむか、それから自己制御、怪我防止のための指導を取り込んで体づくり運動の中で実践していくこと。それをうまく盛り込めればいいが、先生のセンスや力量によるので、実際に現場が指導計画や指導案を立てたりするときにかなり苦しい。例えば投力を高める体づくり運動はなくて、ゲーム的に壁に投げて当てて跳ね返るボールを目標に入れるものを探した。そういうアイデアを出したり探すのは大変。

あとⅠ期とⅡ期の違いは、指導要領ではⅠ期は質的な動きの高まりを目指すのが主。Ⅲ期については負荷。回数とか早さ、重さ、負荷を変えて。そこがこの運動の重要なポイントになるが、そこは提言しなくていいのか。Ⅱ期までは回数とか秒数、負荷よりも質の高まり。中学校はデータを取ってやることになると思う。そこが体づくり運動でも違ってくる。ただ、どこまでかは資料として提示しないと収まらないので重要どころだけ抜粋して入れる。図は書き方の問題になるが、相談したい。

事務局

紙面的に2ページにするのは私も今考えていた。分かりやすいのは、説明があり、図の入ったもの。この2面あると非常に分かりやすい。

事務局

キャリア部会は10ページなので、体力もそうするか、A3の折り込みが可能かどうか。あるいは四部会の最終ページなら、奇数でも可能。文章としては重なる部分をうまく整理するといい。いただいたものを次の部会にかけるときに検討するので、あるだけ出してもらい、一旦こ

ちらに任せていただき、また皆さんが検討することは可能ではないか。

事務局

こちらの育成カリキュラムにも文言として入れたいと思うが、それとは別に絵や図の入ったものがあると非常にいい。

アドバイザー

もともと体づくり運動は指導要領上やらなければいけない。それをやるにあたってこの部会として、書かなければいけないこととして、一つは練馬区の子どもの体力の現状から、ここが課題で、具体的にこんな運動があると。もう一つは、体ほぐし、体力を高める運動、これも指導要領上規定されているけれども、その中でこの部会はⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期としてはこれが大事、そのためには質的な向上を目指すのかとか、逆にある程度負荷の目安をかけて、みたいなことが文言として出ることが大事。それから三つ目は前回出た新しい視点で、安全面。自分の体をコントロールするための視点が大事。これは、体づくり運動として一般的に指導要領上とか参考書に書かれている中身ではないことが出ているので、きちんと書き込んでもらう。体ほぐし運動みたいなことは解説書を見ればわかるので、取ってもいい。もう1回言うが、三つの視点。この表で工藤先生の表の上のほう。例えば左側から言うと、これは小学校の体力の現状になるがここに中学校も入る。それから、体ほぐし・体力を高める運動で言うと、Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期でこれと。そして具体的な運動とか、ここを重視するということがあって、自己の体の制御能力の低下。これはすごく新しいのではないか。これを売りにしたほうがいい。

事務局

2ページ扱いで体づくり運動に関する説明文は1枚と、それから図が入ったこちらの運動例の紹介を。またⅢ期にどういう運動例が入ってくるかも畑先生と相談して仕上げる。こちらの育成カリキュラムは運動例の文言だけになるかもしれないが、Ⅰ期に必要な高めたい体力に合う運動例を文言として入れ、育成カリキュラムの文言と、参考として出ている運動例の図と整合性をとるという流れでどうか。ページ数は事務局でもう一度確認する。やはりここは非常に今回の売りの点かと思う。

委員

食育について。本間先生が担当するところだが、資料を探して体育にかかわりそうなところを書いた。参考資料として、食育の目標と内容の系統表みたいなものと、愛知県で出されている県の食育の指導目標で、線を引いたところが健康面とのかかわりの目標。それから下のほうで「心実践力」「知識・理解」とか、Bの食品のバランスという指導内容の系統表があった。これからどのようにこの部会が望ましい生活習慣の確立と食育に触れるか。

事務局

本間先生にこれらを基に資料を作成していただく。桜小中でも食育の年間計画があると思うので、共通部分を抜き出す作業。あとは現段階で具体的に授業で行われている内容、家庭科で食に関する部分もある。この育成カリキュラムはそれを入れ込むこともできるのか。桜小中と

してどういうことを目指しているのかをふまえてこの資料を作成しなければ。

アドバイザー

今までと同じ食育というかたちにするのか、それとも少し広げて保健みたいな考え方にするのか。食育にしても保健にしても、そのことが体力向上とどうかかわっているのかとか、なぜ大事なのか。それからそれぞれの期におけるこの教育が目指す目標やねらいがあつて、具体的な学習の内容や活動が出てくる。現に食育に関しては進めようとする学校があるから、それを参考にカリキュラムに位置付けられるものがあれば、はめ込めばいい。だから食育でいくのか、もう少し広く保健でいくのか、そのあたりの確認ができれば。

事務局

桜小中の食育の全体計画については、入手して提供する。

事務局

今の育成カリキュラムは二本立てで、食育の推進とその他望ましい生活習慣の確立。今まで食育が単独で出ていた傾向もあったので、あえて抜いたほうがいいのか。睡眠時間等もふまえて、規則正しい望ましい生活習慣というくくりにしたほうがいいのか。

アドバイザー

個人的には食育でいいと思うが、これからの改訂もふまえた中で、練馬区の小中学校がどう考えてこれを進めるのか、きちんとしたものを出さないといけない。それがこの部会で出すべき話なのかいつも引っかかっている。例えばすでに食育の指導資料の作成が練馬区であれば、それもふまえて書かなければいけない。このままいくと、担当者が単独で考えて原案を書かなければいけないのでかなりしんどい。

事務局

現在のところはない。ただ、昨年度から教育課程の届出の補助資料に食育の計画を出していただいている。

部長

今までの本部会の流れの中で、大きく二つに分けると身体能力面と、健康に生活するための体力という大きな二つの捉え方があって、重視する指導項目にも、健康を保持するための知識や理解があつた。そしてキーワードとして食育や生活習慣が出た。食育はやはりこれから健康な生活を送るための大きなキーワードだろうし、練馬区でもその点について取り組まなくてはならない。この部会の中で健康の保持増進の一番のメインが食育でいいのか。むしろ私は「望ましい生活習慣の確立」の中のメインに「食育」を捉えたほうが、今の段階では無難な気がする。例えば生活の安全とか安心という項目も盛り込んで、柱として挙げてもいい。

事務局

推進委員会の中で当該校の校長先生が、四つの柱以外にこういうのもあると発言され、体力

の向上、基本的な生活習慣の絡みで食育ができないかとこちらからお願いした経緯がある。背景は命の教育等も入れてほしいというのがあるが、折衷案として望ましい生活習慣。そのためには食育は外せないと考えたほうが楽だと思っている。町田で作った四つの柱の中には食育がある。食育には、食文化、マナー、健康の三つがあり、その健康の部分に着目する。

委員

食育だけでいいのか。幅広く、食育と何かを合わせるか。

委員

体力調査のアンケートで、睡眠時間や日々の運動時間などのデータも出ると思うので、それも含めた中で、生活改善。その中で食育などを原稿に作っていく。小中でデータは集積されている。あとは食育もどの程度この部会ですか。特に体育関係、健康に関する事で、練馬区の子どもの生活習慣が分かるようなデータを活用しながら、改善するためにこんな指導が望ましいぐらいにしか触れられないのか。それ以上は難しい。

事務局

最終の2年次は、1年次のものを受けた実践指導計画になる。だから、教員用の学習指導であり、子どもが使うワークシートなり資料のセットになる。現イメージでは、指導資料として1冊、子どもに渡すワークシートについてはCD-ROMに収めてワークシート集として。

実践は委員の皆さんに、あるいは協力している学校にやってもらう。

事務局

キャリア教育の資料を見ると、重視する指導項目の中で、道徳や生活科としてはこういったことができると挙げられている。私はこれに似たイメージで、食育なら小5の家庭科でこういう単元項目があるとか、生活習慣は中3のいろいろな生活習慣とか、既存のもの。食育も、教科の年間指導計画を学校で作っているの、そこに改めて設置するのは非常に難しい。現状は健康を保持増進するものとして織り混ぜていけたらいい。論立てとしては、例えば「食育と望ましい生活習慣」とあるが、食育をポイントとして挙げるのであれば、生活習慣の確立というところで食育もあり、生活習慣もあり、一つの縦ラインとして挙げることもできる。食育を強調するのであれば、食育とそのほかの生活習慣にかかわる教科の、今指導要領で提示されている内容を載せてみてはどうか。主にかかわるのは家庭科、保健体育の保健分野。あとは、桜小中で過去から継続的に食育にかかわることを行っているものがあれば、提示はできると思う。

部長

やはり、今の事務局先生のイメージがいいのではないかと。食育の推進をメインに9年間の縦長のラインに折り込んで計画すると、かなりの負担が出る。そういうかたちで、望ましい生活習慣の中の一つのコマとして食育を捉えて、このⅢ期のどこかに組み込んでいくほうがいいのではないかと。

アドバイザー

僕もそう思う。心配は「全学習期を通じて学習する内容、体験させる活動」で、クラブ・部活動、学校行事、体づくり運動はいい。それと同じ桁で食育とか保健になるものは何か。あとはキーワードを何にするのか、事務局で検討していただきたい。

委員

今大きな四つ、クラブ活動・学校行事・体づくり・保健とあって、この四つで共通する柱はどうか。例えば「学校行事とは」とか、「体づくり運動とは」とか「クラブ活動とは」という感じで柱に共通するものを作るのか。今これを見ると、ねらいは同じだがバラバラ。

事務局

こちらの育成カリキュラムには文言程度しか入らないので、これを抜き出して詳しく説明するというイメージ。

アドバイザー

要するに、「体づくり運動とは何か」「学校行事とは」というのは定義付けされているものだから、その運動の中で本部会としてはこれを重視したとか、あるいは学校行事の中でも「健康」「安全」「体育的行事」の中でこういう部分を重視して、この学年でここを大事にしたいということストレートに書けばいいのではないかな。

事務局

次に「部会で重視する指導項目」について。3点挙げた。1点目は運動に必要な動きや技能で、前段で生涯体育、生涯に渡って運動に親しむことを前提に、まず低学年の時期からさまざまな運動を体験させる。本部会としてはそこに体づくり運動の充実を取り上げた。それから育成カリキュラムのところに、本区の課題となっている体力の要素を挙げ、それにかかわる運動の種目を参考例として挙げ、体力の向上を図っていくところ。それと、自己の体を守る動き等も重視していくことを盛り込んだ。2番目の「運動の楽しさを味わい意欲的に運動に親しむ態度」の欄、ここはとにかく運動が楽しい、そして自分から運動をやりたいという情緒面、意欲面を取り上げた。内容的には、異学年との交流集会等で運動の楽しさを味わう。それから部活動を入れた。選択をして小学校段階から部活動に参加できる校内体制を整備すること。あとは、地域人材をどう活用するかという視点も、小中一貫には含まれているので、学部指導員を挙げ、なるべく部活動の機会を保障していくということ。三つ目の「健康を保持増進するための知識や理解」で、健康的な生活習慣を見つける知識の習得が必要ということ。特にここは食育を挙げて、栄養のバランス等々を一層重視する必要があること。また、保健、家庭科の授業と関連を図って、望ましい生活習慣を見つけるための知識を習得し実践していく力を育成していくこととまとめた。

委員

プロットは4番の前のほうがいいのではないかな。具体的なクラブ活動や学校行事が来るページは、そのあとのほうがよくないかな。順番もこの表に対応させて、1が「必要な動きや技能」

で「体づくり運動」が先頭に来て、次が「楽しさを味わい」だからクラブ活動・学校行事が来て、最後に「望ましい生活習慣の知識理解」が来るという順番のほうがすっきりする。2番目にあたるところがクラブ活動と学校行事で、3番にあたるのが食育関係のところという順番。

事務局

そうしたい。今の流れでいくと、1番、2番、次の3番が「目指す子どもの姿」になっているが、ここに「部会で重視する指導項目」で、4番として「各学習期における目指す子ども像」。このような流れで他部会とも調整を図っていきたい。3番目に食育が強く出ているが、このあたり少しトーンを下げたほうがいいかと。

アドバイザー

2番目、具体的な部活動参加の体制作りが書かれているが、その前段として部活動の持っている効果、子どもの精神的な部分とか規律、いわゆる心に働きかけることを非常に大事にしている。そういうことがすごく意義を持っているから、小学校の高学年も交えた展開が大事ではないかとなげたほうがよくないか。

委員

2番目の真ん中、「部活動に参加できるよう校内体制を整備し、外部指導員として地域の人材を活用する」。地域の人材を部活動に生かすのはすごくいいが、現在の「外部指導員」は、本来は顧問がない部に協力を願うというシステムで入っている。それに対して、外部指導員として複数の方を入れるのも今問題になっている。地域人材の活用を図るのはすごく大事なことだと思うが、今ある外部指導員とくっつけると無理があると思う。

事務局

これをあえて入れたのは、最初の小中一貫の体力の向上の文言の中で、「地域社会から外部指導員を迎え、部活動を行うなど」というところがあって、それをスライドした。いろいろな種類の部活動を展開するのに、現所属の教員だけで行おうとすると難しさもある。地域の方が入ることで、顧問が替わっても継続的に部活動が維持できる。そういうところでこういう文言が入ってきたと捉えている。

部長

主体は児童・生徒だから、それを前面に出す中で、表現を工夫すればいいのではないかと。

事務局

今いろいろな視点で修正したところを踏まえて、また修正したものを、今度は指導課に送付いただきたい。フォントは11ポイント、字数は36字×40行。余白は2.5センチ取って、27日までに、できたらメールで送っていただきたい。

事務局

資料を配布したい。「中1ギャップ」で、黄色でマーカーを引いたものは、『図工』と『美術』

をつなぐもの」。例えば「『図工』は好き、でも『美術』は嫌い」、これを「『体育』は好き、でも『保健体育』は嫌い」とか、体育と保健体育をつなぐものというふうに読み替えて体育を見たときに、どうなのかということを考える資料になる。

*次回日程： 12月4日。 場所 1905室、15時半～